

# 幼稚園令發布記念全國幼稚園大會記錄

## 開會の辭

議長 文學博士 澤柳政太郎君

本日、幼稚園令發布記念の全國幼稚園大會を開くに至りましたことは誠に喜ばしいことであります。甚だ俗な申し方ではありますが、幼稚園のことは疾くに規定はされてゐたものの、御承知の如く従來は小學校令の一部に宿借りをしてゐたのであります。それが今日、各自の要求も進んで來、又當局も大いに其必要を感じて愈々茲に小學校令、大學校令など、同格の幼稚園令なるものが獨立して一戸をかまへたのであります。茲に之を記念すると共に全國の之に關係ある人々が集つて更に將來の發達を圖るといふのは誠に意味の深いことであります。

一體幼稚園の保育事業が、國の教育系統の中に入つてゐるのかどうかは俄に速斷は出來ぬが、之を海外の事情について見るに、幼稚園の發祥地たるドイツでも大部分は私立であつて國家としてはあまり力を入れてゐない。他の國でも殆んど同一であるといつてよろしい。數年前イギリスが大改革を行つた時幼児教育をなす所の機關を國の教育機關の一部分となし、小學校と殆んど同様の取扱をなし、市町村は

設立の義務はもつてゐないが、公共團體が之を設立すれば國家は之に補助を與へることになつてゐる。(英國のはナーセリースクール)折角出来るには出来たが國の財政逼迫の爲、ナーセリースクールは未だ十分な發達をしてゐない。が、財政が十分になれば目覺しい發達をするであらうと思はれる。海を渡つてアメリカでは非常に盛になつてゐる。何といつてもアメリカが幼稚園は最も振つてゐる。一九一六年の統計を見ると園兒の數が五一二九九人の中四八萬餘は公立のものに居て、私立の方には極く僅であるが漸次公立は其收容兒の數が増し、私立の方は非常に減少してゐる狀況を見ると、アメリカでは幼稚園は次第に公共團體の手に移つてゐる傾向が見えるのであります。

二十世紀は兒童の世紀といはれるが、此の消極的の保護事業の方も世界を通じて誠に有望なものだと見られます。の其一つの現はれとして紹介しようと思ひますが、昨年組織された國際教育會議がエチンバラに開かれた時(日本よりは野田大阪高校長出席)同會議は各専門によつて十一の部會に分れ、各種の教育問題が論議されてゐます。其第一は幼稚園問題で就學前の教育について討議されてゐます。(二、小學教育問題、三、中等教育問題、四、青年少年の教育、五、成人教育、六、大學教育、七、師範教育、八、道德、性格教育、九保健衛生の問題、一〇、無學者根絶の運動、一一、國際關係の問題)一々は申上げられないが、其報告書によると、幼稚園教育について總會では左の二ヶ條を決議してゐます。

1 幼年期の教育の極めて大切なことを思ひ、此期に必要な教育については相當の施設をなすこと。

此教育は家庭に於てすると集團に於てするとを問はず、身體、精神共に自由な發達を助け望ましい性格を作ることを目的とする。

2 此教育は幼兒の心身の教養をなす目的の爲に養成せられたる専門の人に任さるべきである。其施設其他の爲には公の費用が出されるのが至當であり、又其教育に關しては各國政府が研究するが相當である。

之を見ても諸君の携はつてゐる幼兒の教育は將來極めて有望だと思はれる。幼稚園教育は確かに日本の教育系統の一部をなすものとするのは遅いことかも知れぬけれども、斯くの如き將來が來るのは、さう遠いことではあるまい。

今回開きました三日の會期は短いけれども提出された問題に慎重の御協議を願ひたい。尙主催者として東京女子高等師範學校の御厚意に感謝すると同時に、最初會員は精々三百以内位と心得てゐたのが實際は殆んど其倍にもなつた盛況で、従つて應接其他に不行届があつて會員諸君に満足を與へない點は御諒承にあづかりたい。(拍手)